

# 社内の次世代リーダーとともに創る新規事業

## PRESENTATION

### 情報提供 1

#### 松江市の資金調達スキームを検討する



松江市長  
上定昭仁氏

松江市では2022年、松江発の新ビジネス創出を目指す「MATSUE起業エコシステム」構想を策定し、起業を志す人々が交流するコミュニティ「MIX」を立ち上げた。23年には商工団体や大学、金融機関とともにコンソーシアムを設立。起業・創業だけでなく、事業承継や企業内起業なども視野に、松江らしい起業の仕組みづくりを進めている。今後は「松江式の資金調達スキーム」も構築し、皆さんのチャレンジをさらに応援していく。

### 情報提供 2

#### 失われた30年を変えられるのは脱炭素と地方のモノづくり



インキュベイトファンド代表パートナー/  
日本ベンチャーキャピタル協会 特別顧問  
赤浦 徹氏

1999年にベンチャーキャピタル(VC)を独立開業。一貫して創業前後のシードステージに特化してVC事業を営み、700社以上のスタートアップに投資してきた。世界に目を向けると、今の日本に「ジャパン・アズ・ナンバーワン」と言われた1990年代前後の面影はなく、一方で、「失われた30年」から「次の30年」に向けた変化が起きる転換点を迎えている。ITで負け続けた日本、成功への鍵は、脱炭素とモノづくりを中心とする地方のスタートアップにちがいない。

### 話題提供 1

#### 余力がある段階で新規事業開発に着手



株式会社Retic 代表取締役CEO 北嶋貴朗氏

2015年の創業後、累計4,000社の新規事業支援に携わり、21年ホールディングス制に移行しグループは10社に拡大。47都道府県に拠点開設を目指し、22年に松江に拠点を設けた。提起したいのはスコット・D・アンソニー氏の「必要に迫られる前に革新せよ、イノベーションの緊急性とイノベーションの実施の能力は逆相関の関係」というイノベーション論、「余力がある段階での新規事業開発」だ。中小企業の命題としてきっかけづくり、人材・組織体制づくり、資金づくりが重要である。

### 話題提供 2

#### 資金調達やボードメンバーに外部人材を活用



株式会社ミイ工業代表取締役  
島田義久氏

土木設計の第一コンサルタントを2008年に社名変更し、畜糞処理・畜産廃棄物処理・汚泥処理製品などの環境機器開発を新たにスタート。畜産農家向けに開発した製品で国際特許を取得した。モノが売れない時代、多くの失敗経験から思うのは、「フューチャーイン」という視点。自社の持つ価値を捉え、戦略的に売っていくことが必要。外部から資金を調達し、ボードメンバーに外部人材を活用することで自社を客観視する。また、その評価を適宜アップデートすることも必要だ。

### 地元中小企業の

#### 新規事業を創発する

#### アプローチとは？



モデレーター  
株式会社ABAKAM 代表取締役  
松本直人氏

**松本** 本日のディスカッションの命題は「企業内起業家」とも言われるイントレプレナー。社内起業家を実践する北嶋さんから「余力のある状況での新規事業」が提起された。ポイントは、

**北嶋** 前職での経験として、既存事業の売上が急激に落ち込む中で、さまざまな新規事業や新サービスを検討し事業化もしたが、資金に余裕がなく、取れる戦略オプションに限りがあった。余力のあるタイミングで創りたい。事業を創るだけでなく「事業を創る人を、創る」ということも重要だ。

**松本** 情熱ある人材の育成、支援体制は。北嶋 提案内容の勝算や合理性、提案者の強い意志があれば、可能な限り挑戦を奨励する。思い切った権限を与えよう。必要なサポートやセーフティネットを整えるのが一番だと実感している。失敗しても成長速度が速い。求められる支援はするが、正解を提示するようなティーチングはしないようにしている。経営段階では、社内起業家が90%以上自社株を持つケースもある。

**島田** 当社の場合、業務内容を絞っての再スタート。社員はほとんど退職し、意欲ある5人で始めた。ゼロイチでの挑戦だった。新たな事業創造に加え、従来から培われてきた技術や文化の継承は欠かせない。

**赤浦** 市長は松江でどのような起業展開を構想しているのか。

**上定** 新規事業にはロジカルな事業計画と経営者のパッションが不可欠。例えば、

**松本** 会場から質問は。

**赤浦** 北海道に気球を使った民間向け宇宙遊覧ビジネスを計画している。宇宙ベンチャーのスタートアップがある。代表と初めて会ったその日に、3億円の投資を決めた。1人2400万円の「宇宙遊覧サービス」を2024年度にもスタートし、すでに5人が申し込んでいる。今後伸びるのはSDGs、脱炭素に関する事業である。

**松本** 会場から質問は。

**北嶋** コミュニティを作っても、すぐに成果が出ないと辞めてしまうことが多い。市長が指摘されたように小さくても良いので実績をつくり、それを発信することが大事。

**赤浦** 僕自身は新聞を一生懸命読んでいるだけ。いろんな新聞を隅から隅まで読み込むのは大変だが世界の潮流が分かる。一流の方がキュレーション(収集・整理)している最新情報を追いかけていると、世界がどう変わるべきなのか、こういうことがあったらいいんじゃないかという考えを思いつける。東京にいても松江にいても同じ情報が入ってくるので、そういうことをしてはどうかと思う。

**島田** スタートアップ同士に限らず、出合いの場がもっとあるとよい。

**上定** 「MIX」はまさにその目的で開設した。「やってみたい」「チャレンジしたい」というときに「MIX」を利用してほしい。一人でできないことは、みんなで一緒にチャレンジすればいい。学生からシニア層まで、勇気をもたらす場所があることを知っていただきたい。「夢を実現できるまち 誇れるまち 松江」を育てていこう。

現在松江市は、市中心部で伝統文化に触れ、工芸体験を楽しめる「職人商店街」という試みを進めているが、まちづくりへの熱い思いを論理的に組み立てて、関係者の共感を得ている。その共感を広げていくためには、目に見える実績を作ることが重要。小さな実績をひとつひとつ積み重ねていくことが、パートナーの発掘につながる成功の連鎖を導くのではないかと。

**島田** 地域の持つ文化や価値をしっかりと認識して、見せ方や売り方を変えることでビジネスチャンスが広がるという点と、モデルケースを重ねていく点が、重要な視点だと思う。

**赤浦** 北海道に気球を使った民間向け宇宙遊覧ビジネスを計画している。宇宙ベンチャーのスタートアップがある。代表と初めて会ったその日に、3億円の投資を決めた。1人2400万円の「宇宙遊覧サービス」を2024年度にもスタートし、すでに5人が申し込んでいる。今後伸びるのはSDGs、脱炭素に関する事業である。

**松本** 会場から質問は。

**北嶋** コミュニティを作っても、すぐに成果が出ないと辞めてしまうことが多い。市長が指摘されたように小さくても良いので実績をつくり、それを発信することが大事。

**赤浦** 僕自身は新聞を一生懸命読んでいるだけ。いろんな新聞を隅から隅まで読み込むのは大変だが世界の潮流が分かる。一流の方がキュレーション(収集・整理)している最新情報を追いかけていると、世界がどう変わるべきなのか、こういうことがあったらいいんじゃないかという考えを思いつける。東京にいても松江にいても同じ情報が入ってくるので、そういうことをしてはどうかと思う。

**島田** スタートアップ同士に限らず、出合いの場がもっとあるとよい。

**上定** 「MIX」はまさにその目的で開設した。「やってみたい」「チャレンジしたい」というときに「MIX」を利用してほしい。一人でできないことは、みんなで一緒にチャレンジすればいい。学生からシニア層まで、勇気をもたらす場所があることを知っていただきたい。「夢を実現できるまち 誇れるまち 松江」を育てていこう。

## TALK SESSION

新しいコトにチャレンジしたい時はMIXにご相談ください。



#### MIXについて

アイデア段階から実践的なビジネスの相談までチャレンジャーが気軽に参加できる、島根県松江市のビジネスコミュニティです。



Instagram



健康経営支援サービスを手掛ける株式会社Canvasを2021年3月に創業

#### 元廣 惇 代表取締役

健康経営支援に関わるコンサルタント業務や地域課題解決、教育・研究などを手掛け、約70社と契約している。MIXでは、産官学金の多様な方々との交流を通じ、どのようなリソースが必要かモニタリングしていただいたり、「この人と会うといいよ」と仲介いただいたり、新たな一歩を踏み出す背中を押してくれる出合いの場がある。海外進出の準備をしており、今後もMIXから知見やご縁を得たい。



メタバース空間の提供や3D制作などを運営するDREAM SQUAREを2024年2月に創業

#### 黒田隆史 代表

元々ゲーム好きで、オンラインの大会で優勝したこともあり、何か起業できればいいなと考えるようになった。MIXは友人を誘って開設当初から参加し、多様な分野の人とつながれるし、何でも相談しやすい雰囲気。創業に必要な事業計画や経営資源、会計の仕組みと資金繰りの管理などもここで学んだ。事業を軌道に乗せ、松江版VCとして起業家に投資できるくらいに会社を成長させたいと考えている。